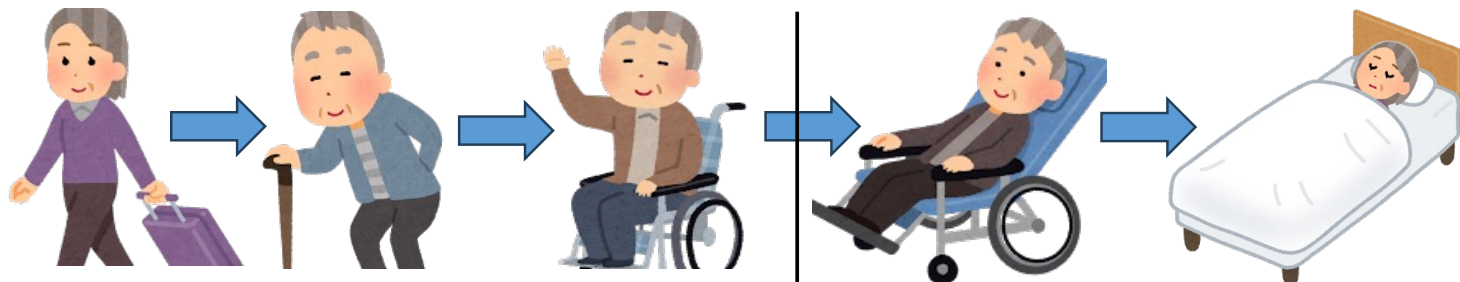


医療提供はどの「視点」から見ていくかでアプローチの方法が異なります。高齢透析患者様は日に日に廃用が進み、通院が困難になっていきます。出来る限り廃用が進まないようにリハビリにも力を入れておりますが、情熱と多様性(Passion & Diversity)を持ち、患者様個々にあった医療を提供していくため、新たな視点での考え方も必要です。患者様は中心プレイヤーでなくてはなりません。元気で通院し、ピンピンコロリで旅立てればいいですが、人間は徐々に機能が衰えていき、だんだん独歩で歩けな

くなり、徐々に弱り最終的にはベッド上から自力で動けなくなります。



当院送迎車にて送迎可  
(体だけで自家用車に乗れる方)

当院送迎車にて送迎不可  
(介護タクシー)

自力で動けなくなった時に、血液透析に通院するのは大変ですが、介護タクシーを使用すれば可能です。介護タクシーが使用できない方は、入院透析という手段も選択できますが、入院透析を続けている限り、家には帰れなくなります。この状況で、家に帰る方法がたった3つだけ残されています。

- ①在宅血液透析(準備・片付けが大変、家族が常にいなければ不可能)
- ②腹膜透析への切り替え(訪問看護に全て任せて施行可能)
- ③透析をやめて、緩和ケアを行いながら旅立ちの準備

**主役の自分自身がどのような選択をしたいか、今一度考えてみましょう。**